

第70回通常総会、2年ぶり開催



規模を縮小し、2年ぶりに開催された第70回明新会通常総会=5月22日、いざ
れも福井市の新嶺会館プラタナスホール

代議員48人参加 発展へ心新た

第70回明新会通常総会は5月22日、福井市藤島高校敷地内にある新嶺会館プラタナスホールで開かれた。代議員48人が参加（別に委任状で39人）。新型コロナウイルスの感染拡大など社会的な懸念

も増す中、出席者たちは会の活動継続と発展に尽くすことへの思いを新たにした。

前年の第69回通常総会はコロナ禍で書面決議となつたため、2年ぶりの開催となつた。ただ、例年通常総会に

合わせて実施する懇親会、実行委員会を担当する学生による講演会を中心とするなど、新型コロナの感染拡大防止に最大限配慮して実施した。会場も例年のフェニックス・プラザから

合わせて実施する懇親会、実行委員会を担当する学生による講演会を中心とするなど、新型コロナの感染拡大防止に最大限配慮して実施した。会場も例年のフェニックス・プラザから

合わせて実施する懇親会、実行委員長へ手渡すのみ。しかし、前年に平成5年卒から平成6年卒への引き継ぎができなかつたため、今回は

行委員長から来年の実行委員長へ手渡すのみ。しかし、前年に平成5年卒から平成6年卒への引き継ぎができなかつたため、今回は

行委員長から来年の実行委員長へ手渡すのみ。しかし、前年に平成5年卒から平成6年卒への引き継ぎができなかつたため、今回は

行委員長から来年の実行委員長へ手渡すのみ。しかし、前年に平成5年卒から平成6年卒への引き継ぎができなかつたため、今回は

明新会新聞

編集 第70回
一般社団法人 明新会
通常総会実行委員会
写真・文 桂知之

変更した。

通常総会は、実行委員長の油谷光紀さんが夫理事長（昭和37年卒）が「絶対総会はやつてもらいたい」と、皆さまからの言葉を頂戴した。愛校精神、愛郷精神に重ねて御札を申し上げる」と強調。同校の松田透校長も「さらなる発展をご祈念する」とあいさつした。令和2年度事業報告など2議案を全会一致で可決し、会旗の引き継ぎ式を行つて閉会した。

開催直前まで県内には県独自の緊急事態宣言が発令され、開催が最終的に決まつたのは

9日前。短い準備期間で無事に通常総会を終え、実行委員会総会部会長の岩佐誠さんはほつとした表情を見せるとともに「今年は『輪』をテーマに準備を進めた。コロナ禍で、当たり前が当たり前でなくなつていて。改めてつながれることへの感謝と、同じ時間を過ごした仲間たちとの絆を未来へつなぎたいとの思いを込めた。この状況に屈せずに、伝統を守り、明新会を盛り立てる」と誓つた。

声震わせ感謝

油谷実行委員長

6年卒の油谷光紀さんは「小規模だが、対面での通常総会がなんとなく、協力いただいた同級生の皆さんには…」

輩への感謝もスムーズに述べた後、突然言葉を詰ませた。「本当にこんな大変な時期に、協力いただいた同級生の皆さんには…」

声を震わせ続けた。「本当に、もう…感謝しかないですね」。ほんのわずか、ここまで苦労をともに乗り越えた同級生たちへの思いがあふれた。

か開催できたことにまずは安堵している」と、滑らかにあいさつを始めた。明新会理事、先

頭が熱くなつた」「ぐつぐつときた」と照れ笑いを浮かべた。

冒頭「開会の辞」を実行委員長に求めるところを「閉会の辞」と言い間違える場面も。ただ、それで会場から笑いが起つ、「一気に場が和んだ」（実行委員会メンバー）。本人も「その後は楽になつた」。緊張がほぐれる特訓の成果を發揮。完璧に進行をこなした。

会旗引き継ぎ 「3世代」で



声を震わせてあいさつする油谷さん(右)。
ほかのメンバーも目を潤ませた



会旗の引き継ぎを終え、記念撮影する
3世代の実行委員会メンバー

場の和ませ
一手に

尾野事務局長



2年前から実行委員会活動に携わり、メンバーを集めなどに奔走し続けた。無事通常総会を終え、ほつとしたのもつかの間。「記念誌の編集はこれから」。活動の終盤戦に向か、気を引き締め直した。



講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール



笑顔で記念撮影する県内在住の講師とスタッフ=藤島高校中庭

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

第70回明新会通常総会の記念事業の一環で、藤島高卒業生が自身の仕事の魅力などを現役生に語る課外授業「第23回ようこそ先輩」が5月21日、福井市の同校で開かれた。昨年は新型コロナウイルスの影響で通常総会とともに中止となつたた

め、開催は2年ぶり。新型コロナの終息が見通せない中、実行委員会はZOOMを用いたリモート講義を導入するなど、ウイズコロナ時代に合わせた事業スタイルの確立に挑戦した。

開催に向けては、平成6年卒業生でつくる一方で「対面で行うライブ感は大事にしたい」との思いもあり、全体をリモートに切り換えて県内在住の卒業生には対面での講義を行つてもらうこととした。また、昨年講師を務める予定だった平成5年卒の先輩たちには、その無念さを晴らしてもらいたいと講師の派遣を依頼した。

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

講義を終えて記念撮影する講師の皆さん。県外の講師陣（中央）はリモートで参加した=5月21日、福井市の新嶺会館プラタナスホール

リモート大幅導入 新たな試み成功

「ようこそ先輩 35人熱弁

と」をしっかりと生徒たちに伝えた。「リモートならではのメリットもあつた」と実行委員長で、講師を務めた油谷光紀さん。「海の向こうのフランス在住の同級生に講義をしていただけた」と、今までの対面形式のみの事業ではできなかつたことが実現できたと強調する。来年以降の事業実施に向けても「これが（ウイズコロナ時代の）ニュースタンダードになるかもしれない。その意味でも成果は上げられたのではないか」と胸を張つた。

優しい世界、魅力前面

記念誌表紙デザイン西田さん

「自分表現できて良かつた」

平成6年卒業生の「輪」をテーマとした記念誌の表紙デザインを手掛けるのは、ランドスケープデザイナー

の西田有紀さん（元3年2組）。「自分が好きなような絵しか描けないし、自分の世界（を）前面に打ち出した絵）が受け入れられるのか」との心配があつたものの、同級生からは「とてもあたたかくて、優しい気持ちになる。テーマにぴったり」と大好評。西田さんは「ほめてもらつてうれしく思つています」とはに

デザインの依頼を受け、イラストのアイデアは即座に思いついたという。「リースを描こう」。輪の形をしているリースは始まりも終わりもない。永遠性を象徴するデザインが「ちょうどいいと考えた」と振り返る。さら

では使えないのに、ここで使わせてもらつた」と言う。

縫つて、今回は5月21日開催の「ようこそ先輩」では講師も務めた。

講義の場となつた藤島高校被服室には、アロマディフューザーを置いてリラックスする香りを漂わせ、「朝に庭で摘んだ」という花を

西田さんはさらに記念誌の「付録」で同級生らに贈る品物のデザインも担う。明新会の活動に「一生に一度しかない貴重な機会だと思う」ときつぱり。「みんなにも会えたし、そこで自分で表現することもできて良かったです」と話した。



～つながりにありがとう～